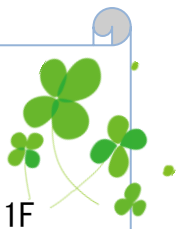


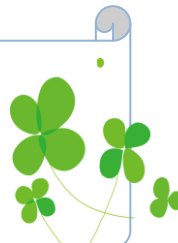
## 定例会

- 毎月第2水曜日 18時00分～19時30分
- おおにしクリニック  
高槻市富田町1丁目18-14 ST マンションⅢ 1F



## 実行委員会

- 毎月第4火曜日 18時30分～20時00分
- 大阪医科大学看護学部1階会議室  
高槻市八丁西町5-37



代表：大西 雅彦  
事務局：高槻けやきの郷(担当 蘆田)

〒569-0044 高槻市番田1丁目60-1

FAX 072-662-5887

<http://www.hamuro.org> の中に活動報告あり

TEL 070-1750-3747 (蘆田：支える会)

080-6220-3984 (竹中：家族の会)

### 【会費】

- 個人年会費 1,000円
- 団体年会費 10,000円

## 認知症の人と家族を支える会 (例会)

参加費 100円

【第一会場】高槻市北部地域

■毎月第3火曜日 13時～15時

■高槻ライフケア協会 高槻研修室うらら (高槻市高槻町7-5)

【第二会場】高槻市南部地域

■毎月第4木曜日 13時30分～15時30分

■高槻けやきの郷1階会議室 (高槻市番田1-60-1)

1人で悩まないで！仲間と交流しませんか？

# 認知症を理解し地域で支える会

認知症を理解し地域で支える会(略称：支える会)は2008年より、認知症に関わる有志によって始めました。困難な介護や介護者の悩みに応える討会などを通してネット



ボランティアで活動状況に置かれた家族べく、研修や事例検ワークを広げてきました。

そして、認知症の人と家族のための情報交流と相談会は回を重ね、支援者は25名を超え、参加者の笑顔が支えになっています

## 代表よりひとこと

ご家族の間で何度考えても名案が出なかったのに、お友達のなにげない一言がきっかけで解決することがあります。ベテラン医師に解決できなかったことが、熱心な新人看護師の関わりから動き出すこともあります。逆に身近なところでいつも見守っているヘルパーさんに見えなかったことが医師には見えるということもあるでしょう。それぞれ違う立場から風通しのよい意見を出し合うことの大切さは、認知症高齢者の援助にもあてはまる課題です。「認知症を理解し地域で支える会」はそのようなことができる見通しのよい数少ない場です。多くの方のお力で長く支え続けてください。

認知症を理解し地域で支える会

代表 大西雅彦(おおにしクリニック院長)



## 認知症の人と家族、医療と介護の関係者、

### 一般市民まで志があれば誰でも参加できます。

「認知症を理解し地域で支える会」では次の活動をしています。

- 認知症の人とその家族が孤立・孤独にならないよう、そして地域で安心して生活できるよう、情報交流と相談支援を行います。
- 認知症の早期発見と早期ケアにつなげるため、かかりつけ医との連携および医療と介護の連携に取り組みます
- 認知症の人の思いや願いに応えるため、介護者の研修を行います
- 「認知症サポーター養成講座」を行政(長寿介護課)と協働して行い、その修了者と共に地域で支える活動につなげます
- 家族会活動の支援を行います



### 情報交流会参加者の声

同じ立場の人のお話は気持ちの通じるところがあり、助言頂いてありがたかった。

介護施設の探し方がわかった。種々参考になりました。

日頃のうっぴんを晴らせていただく場となり、大変気分転換になりました。

実際にぶち当たられた事を通しての助言がとても身にしみました。今後の対応の参考にさせていただきます。



認知症を正しく理解し、その抱えている課題を地域全体で共有できるようにしたい、との思いで参加しています。患者・家族・医療職・介護職が一同に会する「支える会」の活動成果は徐々に実ってきていると思います。

【富永クリニック 富永先生

(前支える会代表)】

家族が介護の悩みなどを率直に話せる場が提供されています。家族同士の経験の交流がこれからの見通しや希望につながっていると思います。

【新阿武山病院

もの忘れ外来 森本先生】

認知症の人を介護する家族にとって介護に関する情報を得たり、他の家族と交流する場を確保する事は介護者と認知症の人のQOLを高めるために極めて重要です。

【新阿武山病院 もの忘れ外来 柳川先生】

本人や家族だけで悩みを抱えるのではなく、悩みを共感できる仲間づくりが大切です。支える会にはそんな仲間(本人・家族・専門職等)がいます。きっとあなたの悩みも和らげてくれる事だと思いますよ。【認知症介護指導者 村上さん】

地域・専門職、それぞれ役割は違うけれど、みんな一人のひと。そして地域はその人が創っていくもの。それぞれがそれぞれの役割を把握し、ひとつの街をつくっていく。その枠を超えて交流ができる場は大切です。

【認知症介護指導者 引野さん】

「誰かにわかってほしい」、「誰にもわかるはずがない」そんな気持ちが少し楽になる機会になっていると思います。介護の悩みを語ってくださることが、同じ悩みを持つ家族介護者の救いにつながっているようです。【認知症地域支援推進員 認知症介護指導者 福井さん】

毎回、参加されている方が「自分だけではない」と表情が柔らかくなるのが印象的です。同じ経験をされている参加者や専門職など色々な意見を聞くことのできる貴重な場であると思います。

【認知症地域支援推進員 辻田さん】

「何か困っていることはないか？」と聞くより「入浴は?」「トイレは?」など具体的に聞いて欲しい。「支える会」の交流の場は「そうそう!」と共感できるので居心地がいいのだと思います。

【認知症の人と家族を支える会

代表 竹中さん】